

トピック

ガス導管の応力測定

大阪ガスでは、現在近畿地区一帯の都市ガス供給の基幹線ともなる近畿幹線を工事中であるが、その安全性には従来以上に万全を期している。

その路線の一部に、西名阪道路、相原インターチェンジ付近を通過することになり、附近の地形上、河川を数回横過せねばならず、工事は完全を期して行なわれたが、屈曲の多い所でもあり、保安上より万全を期すためひずみゲージを用いて配慮をしている。

このため共和電業、計測事業部の協力により、共和ゲージK P-6-B2をガス導管1断面4ヶ所、9断面（延長600m区間内）に貼り付け、防湿処理を充分に行ない、直流ブリッジ電源（12点用×3台）、打点記録計（上、下限警報接点付）等を測定小屋に設置し、ガス導管に規定値以上の荷重がかかったときには、大阪ガス本社へランプおよびブザーにて警報する仕組となっている。万一の場合には営業所より現場へ直行できる体勢がとられている。

なお、44年11月にゲージ貼り付けを完了し、各計器は12月より動作を開始し、現在も順調に監視を続けている。

